



うりゅう

みんなには 議会であ

発行／雨竜町議会 編集／議会広報特別委員会



(11/18 行政常任委員会学校視察)

No. **208**
2022.2

- 定例会及び臨時会の審議結果…………… P2～4
- 行政常任委員会所管事務調査報告…………… P5
- 一般質問 3名の議員が質問…………… P6～10
- 表彰の伝達…………… P11
- 中学生が議会を傍聴しました…………… P12～13

令和3年 第4回定例会

(開催日程：令和3年12月9日)

審 議 結 果

議 件 名	結 果
専決処分した事件の承認について 「令和3年度雨竜町一般会計補正予算（第5号）」 (100万円を追加し、総額40億5,846万1千円とする)	承 認
雨竜町国営土地改良事業分担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について (雨竜町土地改良事業の新たな道営事業及び団体営事業での分担金徴収の一部を市町村が行うため)	原 案 可 決
令和3年度雨竜町一般会計補正予算（第6号） (5,508万5千円を追加し、総額41億1,354万6千円とする)	原 案 可 決
雨竜町ジュニアスクールを管理する指定管理者の指定について 1 指定管理者に管理を行わせる施設の名称及び所在地 名 称 雨竜町ジュニアスクール 所在地 雨竜町字満寿33番地94 2 指定管理者となる団体の名称、代表者の氏名及び所在地 名 称 いがらし塾 代表者の氏名 塾長 五十嵐 英昭 所在地 雨竜町字満寿31番地56 3 指定の期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間	原 案 可 決
雨竜町監査委員の選任につき同意を求めることについて 雨竜町字満寿30番地27 木村 幸一 氏	同 意 可 決
人権擁護委員候補者の推薦について 雨竜町字満寿30番地221 柴垣 一男 氏	適 任
令和3年度雨竜町一般会計補正予算（第7号） (699万2千円を追加し、総額41億2,053万8千円とする)	原 案 可 決

一 般 会 計 補 正 予 算

◇令和3年度一般会計補正予算（第5号） これまでの予算に100万円を追加し、総額40億5,846万1千円とする。 (歳出の主な内容)		
民 生 費	冬季生活支援事業扶助費	1,000,000円

◇令和3年度一般会計補正予算（第6号）

これまでの予算に5,508万5千円を追加し、総額41億1,354万6千円とする。
（歳出の主な内容）

総務費	備品購入費	1,017,000円
総務費	ネットワークサーバー更新業務委託料	3,890,000円
総務費	町ホームページ更新業務委託料	6,000,000円
総務費	公共施設個別施設計画策定業務委託料	△4,765,000円
総務費	備品購入費	△2,262,000円
総務費	ふるさと納税贈答品代	2,347,000円
総務費	ふるさと納税贈答品等郵送料	27,031,000円
総務費	ふるさと創生基金積立金	11,300,000円
民生費	障害児施設給付費	3,555,000円
衛生費	健康管理システム改修委託料	4,500,000円
衛生費	ワクチン接種委託料	2,400,000円

◇令和3年度一般会計補正予算（第7号）

これまでの予算に699万2千円を追加し、総額41億2,053万8千円とする。
（歳出の主な内容）

商工費	道の駅事務所移転改修工事費	4,592,000円
土木費	建設車両修繕費	2,400,000円

意見書

第4回定例会で議員から提案された次の意見書について審議の結果、原案のとおり可決され、関係行政庁に郵送により提出しました。

○地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書

（要旨） 北海道内では、海水温の上昇が漁業に大きく影響を及ぼしているものと推測され、原因の究明が急務となっている。また、新型コロナウイルス感染症対策による飲食店での消費減退に伴う魚価安が、水産漁業者の不安を増幅させている。さらに、今年9月以降の赤潮が発生したことで被害が及び、大きな経済的損失を被るとともに、来年以降の漁に不安を生じさせた。よって国において早急に措置を講ずるよう強く要望する。

【提出先：内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・内閣官房長官・総務大臣・財務大臣・農林水産大臣・国土交通大臣・厚生労働大臣・環境大臣】

○燃油等の価格高騰対策、国の農業予算や運用変更に関する意見書

（要旨） 食糧の安定供給と農業の持続的発展を図るため、燃油等の価格高騰対策、水田活用直接支払交付金などについて、万全な政策を講ずるよう要望致します。

【提出先：内閣総理大臣・財務大臣・農林水産大臣】

令和3年 第4回臨時会

(開催日程：令和3年12月15日)

審 議 結 果

議 件 名	結 果
令和3年度雨竜町一般会計補正予算（第8号） (2,674万9千円を追加し、総額41億4,728万7千円とする)	原 案 可 決

一 般 会 計 補 正 予 算

◇令和3年度一般会計補正予算（第8号） これまでの予算に2,674万9千円を追加し、総額41億4,728万7千円とする。 (歳出の主な内容)		
民 生 費	子育て世帯への臨時特別給付金	26,200,000円

令和3年度一般会計補正予算（第8号）への質疑応答

Q. (吉本議員)

子育て世帯への臨時特別給付金が配られるとのことだが、①スケジュールについて ②18歳の基準日について ③国で設定している所得制限を超過する人数について ④給付後に出産・転入される方について ⑤町として所得制限を撤廃して支給することの考え方について 以上5点を伺う。

A. (住民課室長)

①可決をいただければ本日（臨時会当日）中に文書を配布したい。12月29日に一斉に支給するが、申請手続きが必要な方で間に合わなかった場合は順次支給する。②令和3年9月30日時点での居住地が対象となる。③34人。④令和4年3月31日までに生まれた場合は支給対象である。

(町長)

⑤子育てに係る世帯について、皆さんが平等だという考えが基本である。また、雨竜町では所得制限に該当する方は農業者の方であり、米価が下がっていることも勘案している。

行政常任委員会報告

令和3年第4回定例会までの閉会中に行った所管事務調査の結果内容を報告いたします。

期 日：令和3年11月18日（木）・19日（金）

<調査事項>

学校の教育環境と現状について

<調査結果>

雨竜町立学校は、平成26年に小中併設校として校舎を増改修し、令和2年から、小中一貫教育制度を導入しており、教員の相互乗り入れ授業をはじめ、外国語指導講師による授業、学習指導専門員の配置、ICTを積極的に活用した授業などを行っている。

GIGAスクール構想により1人1台のタブレット端末環境が整えられ授業に対する理解度を把握することができ、双方向型の授業展開が可能となっている。また、家庭への持ち帰り利用や既存ICT機器を活用した積極的かつ先進的な授業等が現在行われている。

また、コミュニティ・スクールでは、地域住民と協力しながら特色のある「ふるさとキャリア教育」も行われている。この他にも新たな事業への取り組みを期待したい。

新型コロナウイルス感染症対策として、毎日児童の健康観察を行い、自動手指消毒器・自動体温測定器の導入や、水道蛇口形式の改修、3密対策・マスク着用、更に各教室への空調整備改修が実施される等、より安全でより快適な環境が整い、子どもたちが安心して授業に集中することができている。

令和2年度より、小中一貫教育制度が導入され、「学びの連続性を保証し、義務教育9年間で修了するにふさわしい学力・体力・豊かな心を身につけさせる。」との目標を全教職員が認識し、学校運営を行っている。今後も小中連携強化を図りながら常に子どもたちの目線に立ち、すべての子どもたちが、健やかに成長し、9年間の義務教育を修了するために、これからもきめ細やかで特色ある教育を学校現場と教育委員会が、連携を密にしながら取り進められたい。



タブレット学習の様子



給食の試食

<現地調査>

みどり団地B棟、ことぶき団地第2期分譲宅地（令和3年度6区画整備・分譲）及びわかば団地B棟の現地調査を実施しました。



ことぶき団地第2期分譲宅地

令和3年第4回定例会一般質問

12月9日に3人の議員が町政執行に対し、

3項目の一般質問をしました。

「ふるさと納税の活用について」



吉見議員

質問

ふるさと納税については、雨竜町においても多くの納税が行われているところであり、返礼品のうりゆう米を中心に年々納税額が増加し、令和2年度においては過去最高の納税が行われたところであります。このことは、コロナ禍の影響による巣ごもり需要の増加や各種ポータルサイト利用による利用者の拡大と新規の返礼品の掘り起し、またふるさと納税を担当されている地域おこし協力隊のPR努力など行政としても大変ご苦労された成果であり、納税額の増加については本町にとっても大変

喜ばしいところであります。

水稲生産を柱とする本町においては、ふるさと納税が増えることにより返礼品となるうりゆう米が多く、食していただくことは、返礼品としての価値だけではなく、販路拡大の観点から見ても有効な手段につながることから、全国に向けて米の町、雨竜町としてのPRも同時に進めていかなければなりません。ふるさと納税の活用については、返礼品等を除いたものはふるさと創生基金として活用された内容がホームページや町広報紙、町政懇談会等でも報告されていますが、今後ふるさと創生基金についてどのような活用を考えたのか町長に伺います。

町長

ふるさと納税の関係でございませけれども、道内外から多くの方から本町へ多額の寄附をいただいております、大変感謝しているところ

であります。平成28年度から令和2年度まで、昨年度までこの5年間の累計で、件数で2万7,000件、金額にしまして8億1,780万円、大変多大な金額、寄附をいただいております、中でも昨年の令和2年度については過去最高の8,074件、3億470万円の寄附額となっております。でございます。

返礼品につきましては、全130種類の返礼品を用意しまして、その中でも米どころ雨竜町のPRにも大きく貢献しております。うりゆう米、こちらは寄附していただいた方より大変おしいと好評でございます。称賛されております。その人気は大変高く、昨年度の申込み実績でもお米は62%を占めていると、そういう状況であります。また、そのほか雨竜産の野菜類についても好評でありまして、18%の申込み実績となっております。このことは、ふるさと納税のPRを契機に雨竜町の魅力や返礼品の紹介を複数の大手募集サイトを活用しまして全国へ情報発信することで、雨竜町を多くの方々に知ってもらった結果だと、そういったことで寄附額が伸ばすことができたのではなからうかと推察するところでございます。

いただきました寄附額から返礼品の部分と、そして送料、募集サイト手数料などそういった経費等を差し引きまして残ったのが大体3割ぐらいということで、その3割の額を基金として一度積立てさせていただいております、その使い道としましては農業関連施策、定住対策、防災対策、観光対策関係経費、それから学校教育関係経費、保育園、公園整備など町民に広く還元できる対策を講じているところでありまして、ホームページですとか町広報紙でもその内容を町内外に向けて周知させていただいております。このことから、ふるさと創生基金につきましては、従前同様に雨竜町へ使途別に、使い道別に寄附をしていただいた方々の意向を十分考慮しながら、限りある財源の中でどのような効果を発揮させることが望ましいか十分検討しながら、今後有効活用してまいりたいと考えております。

再質問

今の町長の答弁の中にもありましたが、大切なふるさと創生基金の財源については、これからも十分に検討されながら、その使途について検討していただきたいとこ

ろであります。

そこですが、今後のふるさと納税の寄附であります。返礼品だけの目的の寄附ではなく、寄附者に対してこれから雨竜町がどのような財源を必要としているのか、また今までどのように活用してきたかなど、現在のふるさと納税においては納税者は各市町村のホームページ等を見た後に納税されているのも現実です。今後ホームページなどを大いに活用し、寄附者に対し具体的に提示することで利用目的を明確にし、本町のふるさと納税に理解と賛同をしてもらえることがさらなるふるさと納税の増額と町内振興、発展へとつながるのではないかと考えますが、再度町長の考えを伺います。

町長

現在ふるさと納税の募集につきましては、町のPRによりまして寄附者側から雨竜町で何に使ってほしいかという道を選択してもらって寄附を受け付けております。十分ホームページ等で周知できているとは思いますが、その中身としましては、ふるさと創生、定住促進、地域福祉・健康、農業振興、雨竜沼保全、それから町長に任せるといふふうになっておりま

して、その中の全体の3割が私に任せるところで寄附をいただいております。

今後寄附の使い道を具体化することで一層の寄附増額と町内発展につなげてはと、そういった先ほどのご意見でございましたけれども、現在は特に具体的かつ特定された事業等の寄附募集というのは実施しておりません。寄附者側の善意でいただいた財源は、雨竜町のために広く活用しやすいように現在の募集方法を今後も進めていく考えでございますので、ご理解いただきたいと思います。

再々質問

今の答弁の中で町長もホームページ等でも報告しているということとでありましたが、もう少しそのホームページの中身も納税者が見やすいような形で提示していただければと思います。

また、今後本町においてですが、今後も大きな事業が計画された場合については、特定された財源が活用できるような募集方法の内容や活用を寄附者にも明確にして寄附を募ることが必要と考えますが、再度町長の考えを伺います。

町長

ただいまのご意見でホームページさらにといいことでございますので、こちらとしましては何とかな分かります、納税しやすい、使途別に分かりやすいようにさらに工夫を重ねていければと思っておりますので、ご理解願いたいと思います。

また、寄附の活用としまして、ただいま吉見議員からありましたように事業に特化したといえますか、特別な事業にといい話もありましたけれども、そういった事業に本当に特化するもの、そういったものが発生した場合では今後の寄附金の募集方法の参考として今後検討してまいりたいと考えております。そういったものがあれば、当然やらなければならぬと考えております。

「新たな定住促進対策について」



佐々木議員

質問

現在雨竜町では、人口減少に歯止めをかけるため雨竜町田園の里定住促進条例を平成24年に制定し、令和4年3月31日までの10年間に有効期限とし、様々な定住助成制度を進めてきました。現行制度の中では、出産に対するお祝い金、転入者や新規卒業者就業、農業新規参入者への奨励金、結婚定住者お祝い金、宅地購入奨励金、新築やリフォーム奨励金など多岐にわたる定住促進対策を実施し、新たに雨竜町に住んでみたい、または長い間住み続けたいと感じられるほかのまちにはない手厚い施策が取られてきたところであり、人口減少に歯止めをかけるための一つの事案としては魅力のある対策だと感じています。定住対策は町独自の施策であり、これまでの10年間財政負担も非常に大きなものがあることから、過去の検証を行いなが

ら、今後の方向性を見据えていかなければならないところです。このことから、今回、雨竜町田園の里定住促進条例の有効期限が迫る中、次年度に向けた定住対策として現在の対策を継続するのか、また新たな考えのもと進めていくのか町長の考えを伺います。

町長

雨竜町の定住促進対策につきましては、平成13年に雨竜町定住促進条例、こちらを施行しまして、その時点で人口3,509人、その10年後、平成24年に現在の雨竜町田園の里定住促進条例が施行されたその時点では人口2,818人と、この20年間で出生数減少、社会減、自然減ということが収まらずに、令和3年11月末現在の人口は2,217人となっております。全国的な人口減少でございますが雨竜町の人口減少スピードを少しでも遅らせる目的もあり、雨竜町独自の定住促進対策を講じてきたところでございます。

現在の雨竜町田園の里定住促進条例については、この10年間で出産祝金につきましては96件の1,243万円、そして若者定住奨励金につきましては44件で530万円、持家定住奨励金につきましては

は112件で7,004万7,000円という金額を交付しております。総体では252件で8,777万7,000円という金額を奨励金として交付しております。財政的には大きな金額の支出となつてございますけれども、人口確保及び雨竜町の活性化を目的とした独自の定住施策として実施してきたところでございます。このことから、少しでも人口減少率を鈍化させまして、活力ある雨竜町を築き上げていくためにも、今後におきましても定住促進対策は必要な施策というふうに考えているところでございます。

次年度に向けた対策としては、今までの奨励金の交付、活用実績を見ましても大きく変更する要素はないと思っておりますけれども、一部新築の持家奨励金の限度額を現行の250万円から300万円に50万円増額、それから持家リフォーム、こちらの奨励金、現行請負金額の7%から10%に3%増ということ、それからまた新たに中古住宅ときの土地購入者が住宅を解体し、新築した場合におきましては解体費用の3分の1を補助、これは限度額を設けまして、30万円という限度額を設定しますけれども、そういったこと

を計画しているところでございまして、これまでのものよりさらに魅力のある施策となるよう変更を加えまして実施する考えでございます。

いずれにいたしましても、多大な財政負担が伴いますので、事業実施によりまして大きな効果が得られることを期待しまして、今後も積極的に取り進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

再質問

次年度以降に向けた定住促進対策取組の考え方については理解いたしました。

そこで、持家リフォーム奨励金を現行請負金額の7%から10%に増額することですが、近年建設材の高騰によりリフォーム代金は値上がりすることが予想されることから、奨励金の交付率をさらに上げてはどうか。

また、現制度では、リフォーム工事請負費の100万円以上の工事代金に対して奨励金を受けることができますが、小規模な単体工事になると対象工事費まで届かなく、補助を受けることができません。年齢を重ね、長く住み続けると、小さな段差解消や日常利用す

るトイレ、また水回りの改善など、極力経費をかけずに単体で工事を考えている方もいることと推測されます。このことから、リフォーム奨励金対象工事費となる請負工事費100万円以上の制限を撤廃してはどうか。再度町長の考えを伺います。

町長

定住促進のリフォーム奨励金につきましては、個人が居住する専用住宅を雨竜町内の建設業者において請負金額100万円以上の工事、こちらを行うことで補助率を計算し、奨励金を交付してございます。長く住み続けていけば、生活形態ですとか年齢に応じたライフスタイルの変更なども考えられますので、住宅の機能向上を図り、その工事費の一部を奨励金としまして交付するというところで、これからは雨竜町で長く住み続けていただく、そういった目的で実施しております。

今回リフォーム奨励金につきましては、7%から10%に増額するということを検討している中、今佐々木議員からさらに補助率を増やしてはどうかということがございますけれども、個人財産に対する奨励金としましては、ある程度

の補助率を定めると、そういうことが適切と判断しております。新築奨励金の補助率、こちらも250万円から300万円に上げるのですけれども、それも基本は10%の補助という考えでございますので、それに合わせたというところもございます。また、住宅改修については、機能向上を図ることで今後さらに雨竜町に、先ほど重複しますけれども、居住し続けるということを目的としておりますことと工事費についても相応の経費がかかることが予測されることから、その負担を少しでも軽減するために工事費の一部を助成するというところでございます。

このことから、100万円に満たない工事費につきましては、ご自身で対応していただくというところでご理解願いたいと思いますし、また先ほど段差解消ですとか手すりですとかそういった高齢者、障害者の部分もあろうかと思っております。これは少額でできると思っておりますけれども、それはそれでまた別な制度もありますので、そういったものを活用いただければと思います。

「地域おこし協力隊農業支援員の活動について問」



野村議員

質問

今回地域おこし協力隊農業支援員として初めて委嘱され、9月1日付でその任に従事されました。本町の特産品である暑寒メロンに希望を抱いて応募されたことは、本町にとって明るい話題となっております。既にお実習先で研修を受けながら、技術の習得に向け活動されているとのことですが、四季を通じての活動方法など克服しなければならぬ課題が山積していると考えます。任用期間は最大3年間で、終了後には定住と就業を目指し、自立に向けた取組へと進む中カリキュラムに沿って進められると考えますが、そのサポート体制が気になるところでもございます。協力隊本来の業務もつかさどる中、農業に特化した従事者でもあることから、その目的と役割、今後の活動について町長に伺

います。

町長

本町の特産品であります暑寒メロン、こちらの生産農家が過去の最盛期には、これは大体平成3年ですからもう30年前ですけれども、作付農家100戸以上で面積は33・1ヘクタールという作付と農家戸数でございましたけれども、令和3年につきましては22戸の3・5ヘクタールと大幅に減少しております。そういったことから、暑寒メロンの栽培技術を身につけて、任期後は就農を目指す、そういった人材を地域おこし協力隊として募集しまして、今回1名の採用となったところでございます。

サポート体制といたしましては、本年4月に新規就農者への支援を行います雨竜町農業地域担い手育成センター、こちらを役場産業建設課内に設置いたしました。この担い手育成センターは、町、農協、普及センター、そして指導農業者などで構成されておまして、新規就農を目指す地域おこし協力隊への支援も図ることとしてございます。9月から着任した地域おこし協力隊員につきましては、9月から11月につきましては指導農業者のところで稲刈り、それから米

の出荷作業、農業機械の操作等の実習を行いまして、これからの冬期間につきましては町、農協、普及センターなどで営農指導研修等を行いまして、来春から実際にメロン農家で1年間実習を行いまして、栽培技術を身につけるといった計画となっております。このほかには雨竜町の農業を中心とした町のPR活動もやっていただくというところで、SNSなどによります情報発信、こちらも地域おこし協力隊の業務としてやっていただくという計画をしております。本町では、農業支援としての地域おこし協力隊の採用、これは初めてでございますけれども、最終的には本町で就農して定住されるよう、町はもとより関係機関が一体となって支援していかなければならないと、そのように考えてございます。

再質問

先ほどの答弁を伺い、受入れ側の対応としては新規就農者への支援を行う雨竜町農業地域担い手育成センターが中核となり、しっかりとしたサポート体制を組んだメニューの中で進められるとのことでは理解できます。支援員としても農閑期を利用して研修や技術の習

得、さらには農業者との交流など見聞を広め、スキルアップしていただきたいと考えます。

しかしながら、未知な分野だけに地域性や環境、現実とのかい離や人間関係などによる心の格闘もあり、メンタル的に大変な面もあると推察いたします。着任前後のイメージギャップやミスマッチを緩和、解消してあげる意味において隊員と地域、行政相互のパイプ役を務める専任コーディネーターを設置するなど、地域になじみ、溶け込めるようサポートが重要であると考えます。今後も地域性から支援隊員の補充体制も視野に入れ、将来的に農業に就業したい方のために協力隊員の増員を図らなければならぬと考えますが、計画としてあるのでしょうか。さらに、増員に応じて特産品であるメロンの作付や就農を支援する専任のスタッフ、職員を設ける必要も出てくるのではないかと考えますが、2点について再度町長に伺います。

町長

今質問がありました地域おこし協力隊員の増員につきましては、特産品のメロン農家の人材確保をはじめ就農者確保の方策としまし

て、今後についても受入れを検討してまいりたいと考えてございます。

それから、専任スタッフでございませぬけれども、特産品のメロン作付、こちらを指導する専任スタッフ、こういったものを設けることは想定しておりませぬけれども、担い手育成センターにおきまして新規就農者の受入れ等を推進していく中で、将来的には専任の就農コーディネーターを設置するとうう、そういった計画もございませぬ。地域おこし協力隊が就農するためのサポートにつきましても、今後の新規就農者、それから研修生、こちらが増える等の状況を見ながら、就農コーディネーターの設置について検討してまいりたいと考えております。

再々質問

前向きに検討していただけたらとこのことで理解いたしますが、地域おこし協力隊農業支援員の任期満了後には、自立に向けて雨竜町を定住の地として選ばれるよう温かく見守り、育てなければなりません。地場産業や担い手不足の解消のための一翼を担うことでもあり、今後の支援活動に期待するところでもあります。本町の初のモデル

ケースとなるだけにプロセスを組んだ取組を申し上げ、質問を終わります。

町長

先ほど申し上げましたとおり、就農を目指す地域おこし協力隊、こちら初めての採用でございませぬ。ご本人現在高い志を持って、希望に燃えて将来の夢を描いており、町としても、私個人としても大変喜ばしいことだと考えております。しかし、目的を達成するのは簡単なことではないと私も考えております。これからのいろいろな困難が待ち受けているかもしれませぬ。何とかこれからの2年間でうまく進んでいきますよう町担い手育成センターを中心に関係機関としっかりサポートを行っていかなければならぬと考えっております。そういうことをご理解願いたいと思います。

議会の傍聴お待ちしております！

定例会は年4回、臨時会については必要に応じて開かれます。

次回の定例会は3月に開催を予定しています。

事前の申し込みは不要です。ぜひお気軽にお越しください。

北海道社会貢献賞（自治功労賞）受賞

令和3年12月8日に北海道知事より、永年にわたり地方公共団体の公職にあって地域住民の福祉の向上に尽力され、北海道の地方自治の振興発展に貢献された功績が讃えられ、藤村俊夫さんが受賞され12月10日、町長へ報告がありました。

今後も健康に留意され、より一層のご活躍をお祈りいたします。



空知町村議会議長会表彰伝達式

令和3年10月13日に空知町村議会議長会より、長年にわたり地方自治の振興発展に尽くされた功績が讃えられ、須見栄一副議長、野村耕次郎議員、吉本周治議員、平松恭宏議員が表彰されました。

この表彰は、町議会議員として10年以上在職されたことによる表彰であり、4議員は平成23年4月から現在も町議会議員として活動されています。

12月9日開催の第4回定例会時に竹ヶ原議長から表彰状の伝達が行われました。



第4回定例会に…

中学3年生が傍聴に来てくれました！

12月9日開催の議会を雨竜中学校3年生の皆さんが、社会科の授業の一環で傍聴してくれました。皆さんの感想を寄せていただきましたのでご紹介します。

●進行がとてもスムーズに行われていて、報告が次々と終わっていくのがすごかったです。自分たちが行って開く生徒大会（生徒総会）とところどころ同じ部分があって、こういう部分を自分たちは尊敬しているのだなあと思いました。



●緊張しすぎて細かいところはわからないところもありましたが、議員さんの数よりも議長さんの右や左にいる人たち（役場職員の方々など）の数が多くことなどに気づくことができました。

●最初に報告してから質問等することが分かりました。難しい言葉が出たりしていましたが、何となく話の内容を理解することができました。中学生の部活動の活躍を報告していることが分かりました。質問者が1名で話を進めていました。議長と事務局長の2名で進行されていたのが分かりました。（教育長さんの報告で）自分の名前が呼ばれてうれしかったです。

●いろいろなデータを基にして話し合っていることが分かりました。よりよい街をつくるために、質問や意見を出し、問題を解決していることが分かりました。難しい言葉が多かったですが、行ったことを細かく説明していてすごいと思いました。

●日程内容がとても多く、次々に進んでいくので、理解するのが大変でした。私たちの部活動の結果や学力状況調査の結果を議会で報告していてびっくりしました。またこの結果から、今後どのようにしていくのかを話し合うのだと考えたら、とても大変だなあと感じました。議会での質問は1回で終わらず、さらにさらに詳しく質問していて、学校で行う生徒大会（生徒総会）とは全然違うなあと感じました。とてもよい経験ができてよかったです。

●なかなか機会がないことなので、今日、傍聴できて良い経験になりました。町の現状を知るのにすごく良い方法だと思ったので、一般でまた機会があったら行きたいです。教育長さんからの報告から、僕らの情報が知られていることが分かりました。個人的には佐々木（議員）さんが話をしているところが見たかったです。「こんにちは 雨竜町議会です」も楽しみにしています。

●今まで町議会は生徒大会（生徒総会）と全く違うというイメージがありましたが、意外にも共通している部分があることが分かりました。機会があれば他の町の議会も見てみたいと思いました。

●発言の際には挙手をして議長から許可をもらい、礼をしてからという手順があり、生徒大会より厳しくて驚きました。その他も学校のこと、町のふるさと納税のことなど、幅広い物事をしっかりと議論していて、大変そうだと感じました。その場で出た意見や質問にもすぐに適切な答弁をしていて、驚きました。

●傍聴前は、何が何だかわからないだろうと思っていましたが、きちんと理解しながら聞くことができました。とても議会が静かで、皆さんが集中されているなあと思いました。話し合いの様子をきちんと頭に入れ、今後の活動に生かしていきたいと思いました。西野町長さんの対応力がすごいと思いました。

●雨竜町民などの報告が多かったです。説明する時に専門用語が多かったです。質問者が何回も意見を出していました。自分たちの情報が意外と知られていました。シナリオ通りにやっていたので、スムーズに進んでいました。議長が局長を指名するのがすごく早くて興味がありました。

●社会で勉強した言葉がたくさんありました。難しい言葉が多かったです。テストのことや学校の部活動のことなどの報告があって、興味がありました。学校の生徒大会（生徒総会）に似ているところがありました。議会でどんなことをしているのか、勉強になりました。

●活動報告など町長さんや教育長さんなど、えらい人が行っていました。（議員の吉見さんが、）議長さんに指名され、町長さんに質問したり、答弁をしていました。小学生・中学生が勉強しやすい環境を教育委員会さんがつくっていたり、テスト結果などを分析していることが分かりました。

●中学校で（生徒大会（生徒総会）を）するより緊張感がありました。自分たちが雨竜で生活できることは、たくさんの人の支えがあってはじめてできることだと改めて感じました。

●その日、1日間の会議をする（予定）などを決めていること、いろいろなことを報告したりしていることが分かりました。各地から寄附金が納められていたことも分かりました。コロナウイルス感染拡大対策のなかで、部活動や学習の仕方などの話もありました。町についていることをいろいろと話し合い、滝川などいろいろな場所でも定例会議が開かれていることに気づきました。雨竜小学校・雨竜中学校の勉強のことを報告しているんだなあと思いました。

●教育長さんの話のときに、学習面のことを報告されていたので、（自分が）良い成績を取らないとなあと思いました。わからない言葉はありましたが、とてもわかる話だったので興味を持ってました。



おもな議会のうごき (令和3年11月～令和4年1月)

11月

- 18～19日 行政常任委員会
22日 議会運営委員会
23日 雨龍神社新穀感謝祭 議長
24～26日 中央要望実行運動(東京都) 議長

12月

- 6日 行政常任委員会
9日 第4回定例会・議会運営委員会
15日 議会運営委員会・第4回臨時会

1月

- 7日 雨龍消防団出初式 全議員
9日 雨龍町成人式 議長
13日 雨龍町商工会新年交礼会 議長
20日 議会広報特別委員会
藤村俊夫氏北海道社会貢献賞
(自治功労賞) 受賞祝賀会 全議員
21日 空知町村議会議長会役員会(W
EB) 議長
31日 議会運営委員会・第1回臨時会

編集後記

昨年の12月中旬ごろまでは、雪も少なかったのですが、あつという間の降雪に、毎日の除雪作業に追われ、疲れも溜まっているところだと思いますが、お身体には充分気を付けて過ごして頂きたいと思います。

さて今回は、12月定例会、臨時会での一般会計補正予算等の課決議案など記載しています。また今回の定例会には雨龍中学校3年生が社会科学習として傍聴に訪れ、貴重な体験ができたと聞いております。今後も雨龍中学校3年生の傍聴を楽しみにしています。

令和2年2月頃から段々と流行りだしてきた新型コロナウイルスも幾度もの緊急事態を乗り越え、昨年末には、終息に向かいかけたかと思いましたが新年に入り、急激な増加状態となり、近隣でもクラスターが発生するなど、まだまだ気を抜けない状況が続いています。ワクチン接種も3回目が始まると思いますが、皆様も感染症対策は、今までどおり徹底されるようお願いいたします。

(佐々木 徹 記)

中学3年生の皆さんへ

12月定例会の傍聴ありがとうございました。また、皆さんから頂いた感想も議員にとって良い刺激になったところです。

さて、皆さんはこれから自身の進路に向けた第一歩が待っています。新型コロナウイルス感染症対策や体調管理等をしっかりと行い、一人ひとりの輝かしい春に向けて議員一同応援しています。

(吉見 拓也 記)



議会広報特別委員会

委員長 木村 啓治
副委員長 佐々木 徹
委員 吉見 拓也